

## 整理、清掃、整頓、清潔、躰とは

—「第1回世界5Sサミット 2012 足利」で考える—

開倫塾

塾長 林 明夫

**Q：5Sで世界サミットですか。ユニークですね。**

A：(林明夫：以下省略)製造業が多く、改善活動が盛んな栃木県足利市は、商工会議所に「足利5S学校」があり、企業ごとに5Sインストラクターを育成するなど極めて熱心に5S活動を推進しています。そのため、日本IE(インダストリアル・エンジニアリング)協会はじめ、国内外から毎週のように視察団を受け入れる街となりました。

そうであるならば、日本や世界の5S活動を通しての改善活動を促進し、企業や地域経済を活性化するために「世界5Sサミット」を開催しようということになりました。2012年11月5日～7日の3日間に、世界12か国からの代表も含め300名の参加がありました。

経済産業省サービス政策課や日本商工会議所、日本生産性本部、日本IE協会の強力な支援と地元栃木県や足利市、栃木県生産性本部、栃木県経済同友会、栃木県経営者協会などのサポートのもとに、サミット実行委員会が数十回の打ち合わせや準備作業を行いました。大好評でした。

**Q：5Sとは何ですか。**

A：5Sとは「整理・整頓・清掃・清潔・躰」をローマ字表記するとSで始まる改善活動を言うことが多いようです。

「足利流5S」は、「整頓」と「清掃」の順序を入れ換えます。

「整理」は、「不要なものを捨てよう」です。この「整理」を本格的にすると、工場や事務所の3分の1ぐらいはスッキリすることが多いようです。「今行っている事業の中で時代に合わなくなったものはやめて、違うことをやろう」ということも「整理」に入ると私は考えます。

「清掃」は、「常にきれいにしよう」です。「整理」して不要なものを捨てた後をピカピカに磨き上げて、クリーンリネスを保つことが「清掃」だと私は考えます。

「整頓」は、「すぐに取り出せるようにしよう」です。使用したものを決まった場所に戻し、収納することで、ものを取り出すことに要する作業時間を大幅に削減することができます。作業時間の短縮に役立つのが「整頓」であると私は考えます。

「清潔」は、「整理・清掃・整頓の3Sを維持しよう」です。「清潔」によりすがすがしくなり、職場の雰囲気がよくなります。全体がスカッとしますので、顧客(ビジネス・パートナー)からも喜ばれると私は考えます。

「躰」は、「決められたことをきちんと守ることを心がけよう」です。上司から命じられていやいや5Sを行うのではなく、自分自身のために、また、お客様やよりよい職場をつくるために高い志を持って自律的に、自分自身の意志で行うのが「躰」だと私は考えます。

**Q：足利市では製造業以外でも5Sに取り組んでいるのですか。**

A：はい。足利市役所は毎月5日を5Sの日として市役所全体で5Sに取り組んでいます。足利工業高校や足利清風高校など栃木県立高校も取り組んでいます。足利市内の小・中学校にも5Sが広まりつつあります。

足利流5Sは、上の者が下の者に命令するのではなく、本人の自覚を促しながら、本人の意志を大切にしているため、行政や教育分野にも広がっているようです。

医療・介護・福祉施設でも、小売業などのサービス産業でも5Sは盛んです。

栃木・群馬・茨城県に65校舎を展開する開倫塾でも「開倫5S学校」をキック・オフし、教職員・塾生・保護者・地域社会の皆様とともに足利流5Sを少しずつ行いたいと考えております。

**Q：「5Sインストラクター」とは何ですか。**

A：各企業や様々な職場で5Sを推進する5Sリーダーです。きむら5S実践舎代表の木村温彦先生はじめコンサルタントの先生方から5Sの基礎理論と実践方法の研修を受け、5Sインストラクターとして認定されている方です。

**Q：「足利5S学校」とは何ですか。**

A：足利流5Sを足利市内に浸透させるための学校で、足利商工会議所の中にあります。校長の石井金吾氏や教頭の深井孟氏、小倉健夫氏を中心に極めて熱心に活動を行い、日本のみならず、世界における5Sのベンチマーク対象の地に足利市になり、5S世界サミットを開催するに及びました。

**Q：学習塾・予備校・私立学校の経営者、経営幹部の皆様にお伝えしたいことはありますか。**

A：足利市には日本最古の学校「足利学校」があるため、孔子の教えである「論語」の素読を小学校・中学校でも行っています。孔子の教えの基本は「恕(じょ)」、つまり相手に対する思いやりと私は考えます。よい職場をつくることは自分にとっても自分以外の方々にとってもお役に立つことだと思いますので、5Sも孔子の恕に通じるもののように思えてなりません。私は、足利学校をもつ足利市では「論語と5S」による人づくりを推し進めることがよいのではないかと考えます。

皆様の街でも独自の歴史や文化、産業を見つけ出し、それを街の強みとしてしくみにすることが街の発展に直結するのではないかと思います。グローバル化が急激に進む今ほど、日本人としてのアイデンティティーが求められる時期はありません。地域の発展のためには、そこに住む一人ひとりが地域のよさを見出し、それを身に付けることが求められると思います。足利市の「論語と5S」による人づくりはその一つの試みと言えます。

**Q：最後に一言どうぞ。**

A：混迷深まる現代世界でどのように生き抜いたらよいかを考える上で参考になる一冊を御紹介させていただきます。ユーラシアグループ代表のイアン・ブレマー著「Gゼロ後の世界—主導国なき時代の勝者はだれか—」日本経済新聞出版社、2012年6月22日刊です。原著である「Every Nation for Itself — Winners and Losers in a G-ZERO World」とともに、一語一語かみしめながら精読するに値する現代の名著と確信します。ブレナー氏の前著「自由社会の終焉」も超おすすめです。是非御一読を。

— 2012年11月15日林明夫記 —

—お知らせ—

開倫塾主催、第8回全国模擬授業大会が5月27日(日)に足利市で開催されます。

翌5月28日(月)には足利市での5S活動の現地視察会を開催します。是非御参加下さい。